参考資料１

参考資料「野幌原始林のこれからを考える市民ワークショップ」意見一覧

第１回：2024 年 5 月 18 日（土）実施　　参加者 23 名（内委員 2 名、事務局 5 名）

指定地を見学し、原始林の現状と課題、今後の保存について考える

（意見シートより）

＜北広島の自然で特に大事にしたいもの、気に入っているもの＞

・野鳥
・野鳥など豊かな自然
・野鳥・エゾモモンガ・エゾリス・エゾサンショウウオ・エゾアカガエル
・コナラ林と、そこにすむウラナミアカシジミ
・モウセンゴケ、エンコウソウ、コクワ、エゾサンショウウオ。
・湿地系生き物、水鳥、タンチョウ。森林性、草原性の野鳥は多いが、湿原系水鳥は限られる（生息域、時期）。
・団地内に散在する緑地の身近な植物や動物
・多様な野鳥が見られる。街中にあって自然の樹種が残っている公園。今はすみれに興味がある。幼木があるのでそれを活かしたい（実生）。
・トドマツ
・巨木があることがわかり、原始林が保存されていることが判明。大事にしてほしい。

＜保存活用計画案の内容で確認したいこと＞

・モニタリングの内容（シカ、木の増減）
・定期的モニタリング手法について。
・鹿による樹木の食害による被害と、笹を食べることで幼木が育つのではの思い。鹿も笹もいらない、その方向は無理？自然、ありのまま？
・エゾシカへの対応
・環境が劣化すれば指定を解除されるほど厳しい基準であるのに、2019 年の追加指定は森林環境でない部分

が含まれています。追加指定は既存指定地の保護の目的もあるなら、なぜボールパークの建設が許可されてしまったのでしょう？
・あと 2 回勉強させていただきながら考えたいと思います。

＜指定地や周辺を見ての感想、意見＞
・レク森は変化が大きいので調査を行う。シカの食害を見た。
・鹿害が気になる。
・事前に情報を得ていたのでサイズの驚きはないが、空間状況が確認できた。第二レスト付近に特天の変遷、意義等の説明板を設置し、その価値を市民に広く知ってもらう。
・笹やぶにびっくり。でもこれで人が入っていきにくいのかとも思った。台風の影響はなかったのでしょうか？自然のままが一番なのでしょうか？
・極相林だなぁ、獣害（エゾシカ、ヒグマ、アライグマ）の先回り対策しないと大変なことになるなぁ
・道のないところを集団で歩くとは思わなかったので驚いた。
・全体的には「殺風景」という印象でした。人の手の入った自然公園と比べ、色数（花などの）が少なく、鳥の声も周辺地域を越えると少なかった気がします。カツラ、トドマツ、イチイなどの大径木は圧巻でした。明治開拓期の様子がしのばれてよかったです。

＜指定地の自然を守っていく上で心配なこと、大事にすべきこと＞
・定期的に調査を行う。野幌原始林の価値を伝える。
・獣害対策
・鹿による被害。多様な生き物が共存できる場所。
・レク森を整備して（アスレチック撤去)、利用できるようにする。
・洞爺丸台風で大部分が指定解除されたこと、現状、3 箇所に分断された 60ha であることを知り、少し心配になりました。
・指定地の周りに守るための指定地モドキを作らないと、面積的に辛いのではないか？
・学校教育
・ソーラー、市街地周辺の開発加速、狭い北広島の脆弱な自然が虫食いのように失われていくこと。条例等で今以上に保全できる仕組みが必要。
・エスコン周辺の開発と自然の共存、シカ対策
・隣のエスコンフィールドは経済効果を持ち上げるだろうが、環境負荷でもあるだろう。それに対して原始林はどういう意味があるのかを示すことができればと思う。
・ボールパークの影響が心配です。「天然記念物」という概念を学び、これから大事にすべきことは何なのか、考え直したいと思いました。

＜指定地や周辺の自然の調査として重要なこと＞
・シカの定点観察
・鹿などの害獣の個体数の増減調査、把握調査を行い、結果を公表する。
・モニタリングの実効性
・現在、環境省の里地調査で行っているような、動植物の調査を続けていくことは意味があると思います。
・専門家による調査と、市民参加による調査をきっちり分けて考えて、市民参加のものは重要なところでは行わない
・レクの森を活用して、指定地があること守ることを市民に知ってもらう。
＜あなたや市民グループが参加・協力できそうなこと＞
・環境省の調査。認知の広報を広げる。フットパスがあるなら広める。"
・市民大学 OB 会の自然観察グループに参加しての活動を続けたいと思います。
・かなり昔から行っているレク森生き物調査の継続
・自然調査への参加、協力。このような活動の宣伝。

・利活用計画の意見出し、自然環境に対する課題、要望の提出、現地調査のデータ活用。
・ヒトデの成分（マリンサポニン）による忌避剤、テープなどを開発しているメーカー（道内中小企業）、資料の提供
・森林の大切さを知らせていく場づくり。
・原始林が残った経緯などの学習会。
・北広島市に特別天然記念物の原始林があることの広報。私は全然知りませんでした。

（当日の質疑、討議より）　●は参加者から出された質問や意見、⇒は事務局の回答

＜モニタリングに関して＞

●モニタリングについては、具体的にどういうイメージか。
⇒モニタリングについては、さっぽろ自然調査館や委員の先生方に相談しながら具体化していくが、現在委員から出ている意見として、シカ食害については緊急に見ていく必要があるのではないかといったものがある。
⇒特別天然記念物の既指定地でトドマツが減少していることを紹介したが、林内に固定調査区を設けて、5 年または 10 年に 1 回調査を行い、森林の変化を把握するということが考えられる。

●シカの影響の変化を把握するには、5 年や 10 年間隔では不十分ではないか。同じ特別天然記念物のアポイ岳でも、シカの影響は非常に大きく、多くの高山植物が食べられている。
⇒5 年、10 年というのは、その間何もしないという意味ではなく、毎年少しずつ調査して、その期間でローテーションするという意味である。

＜エゾシカの影響について＞

●モニタリングするよりも、シカ柵で囲うほうがよいのではないか。
⇒対策をすぐに実行することは難しいかもしれない。
⇒他地域の事例では、単木的にネットを巻くという方法がある。効果は大きいが、作業コストが大きいという課題もある。柵で全面的に覆う方がコスト的には良いが、メンテナンスや周辺への影響など、課題も多い。地域全体のシカ個体数を減らすことで、影響を小さくするという考えが基本にあり、居住地が近く銃での捕獲は困難な面もあるが、全体的に考える必要がある。現在の計画素案ではまずは見守ることを基本としている。

●シカの忌避成分を使う方法や、紫外線を反射する忌避材を使う方法もある。そういう対策も検討すべきではないか。使用には文化庁の許可は必要か。
⇒忌避剤の効果や持続性が課題となるので事例を検証する必要がある。文化庁の許可は必要だが、必要と判断されれば許可は得られるだろう。

●貴重なところだけでも早めに守っておくのがよいのではないか。成果が出れば、さらに広げていくことも考えられる。
⇒簡単にメンテナンスできる場所ではないので、費用を考慮しながらメンテナンスが不要で長期的に効果がある方法がよい。ただ、オヒョウやイチイなどが絶滅するおそれがあると判断されれば、緊急対策が必要となるだろう。対策が今すぐ必要かどうか、どこで対策をするのかを判断するために、まずモニタリング調査が必要である。

●シカの移動経路は確認されているか。自動撮影カメラで把握することも考えられる。
⇒ササが薄い場所や沢沿いなどが使われている。冬なら、雪が積もりにくい場所などが使われていると予想される。自動撮影は、アクセス道路周辺やレク森の調査などで野幌原始林の周辺には設置されている。

●野幌原始林の保存において、シカの問題は非常に大きいので、周知や認識の共有は重要である。放置できる状況ではないと思われる。

●今日の見学でも、樹木やササに対するシカの食痕が見られたので、シカの個体数が増加しているのかどうか、生息数調査は必要と考えられる。
⇒（森下委員）定点調査については、市民大学でモニタリングサイト 1000 の一環としてカメラの設置をしている。シカは昨年の調査でもよく撮影されているので、3～4 年継続すれば経年変化が分かるのではないか。データを提供できる。

●シカだけでなく、特定外来生物のアライグマの影響も心配である。
⇒全国で、まだ天然記念物の保存活用計画の事例が限られている。野幌原始林の場合、立ち入り自体が容易ではないため、自然を理解することも、保全していくことも困難である。そのため、情報を集めつつ、どう保全していくかを検討していくことが必要と考えている。今後、市に設置している文化財保護審議会に植物の専門家にも加わってもらい、モニタリングの調査結果を報告したり、ご相談したりしながら保全の検討を進めていくことを考えている。情報が集まり、検討が深まった段階で、保全に取り組んでいけるとよい。
シカ対策に関しては、文化庁と相談していくことも必要となる。対策が必要と判断されれば、北広島市は管理団体として各機関と調整していく。

＜特別天然記念物に関する広報、周知について＞
●特別天然記念物は許可なく立ち入っていけない場所であり、市民に注目されていないが、指定にいたる経緯などについて解説板を立てるなどして市民に周知啓発することが必要ではないか。
⇒市民にあまり認知されていないことは、活用の課題であると認識している。エコミュージアムセンターでの企画展、常設展示を増やすことなどが考えられる。
⇒エスコンのイベント時には市民以外も大勢来るので、そういう機会を利用して野幌原始林を PR することも考えられる。実際に見てみたいというときに、レク森を活用できるとよい。

●エスコンができたことで、北広島市に修学旅行生が立ち寄るようになったが、観光的な体験だけでなく、日本で最初の天然記念物についてもぜひ学習していってほしい。エコミュージアムセンターに、道外からの修学旅行生が来ることもあるか。
⇒さまざまな学習機会の場で、野幌原始林のことを広めていけるとよい。道内外からの修学旅行生がエコミュージアムセンターに立ち寄ることがある。また、総合学習の時間を使って、市外の学校がエコミュージアムセンターを利用している。

●展望台を高くできないか。以前は、展望台から森を眺めることができたが、今は樹木が成長したため、見渡すことができなくなっている。

●旧島松駅逓を訪れた人に、野幌原始林のパンフレットを置くなどして PR してはどうか。

●北広島のフットパスとして、レクの森ややかましの森、西の里などを通過するコースがあると、天然記念物への関心や自然学習につながるのではないか。
⇒（森下委員）市民大学の中に「発見の小道」というグループがあり、市内のフットパス構想やルート選定を行っている。

＜やかましの森について＞
●やかましの森での活動は、特別天然記念物でも認められるのか。
⇒追加指定地になる前からここで活動しているので、従来から行われている活動については文化庁も継続を認めている。

⇒やかましの森の部分は、計画素案では「教育利用」ゾーンとしており、昆虫採集なども、特別天然記念物としてはきわめて例外的ではあるものの文化庁も容認しており、天然記念物の教育活用の事例として評価している。考え方としては、すでに利用が行われていてこれ以上の劣化はないだろうとみなし、あえて計画に組み入れている。

●今後、天然記念物の周知が進んだとき、やかましの森に興味や関心を持つ人が出てくる可能性もある。そのとき、やかましの森に影響が出てくる心配はないか。
⇒今後も、関係者以外の立ち入りは原則的に認めない方向と聞いている。幼稚園関係者にも、計画の検討委員に入ってもらっているので、意見を取り入れながら進めていきたい。

●やかましの森に隣接して「水辺の広場」がある。ここには豊かな森林があったが、大木を含めてかなり伐採されてしまった。ただ、今も人の背丈ほどのトドマツの更新木がたくさんあり、ここも天然記念物の保存管理に組み入れていく必要があるのではないか。

第 2 回：6 月 14 日（金）実施　　参加者 26 名（内委員 3 名、森林管理署 3 名、事務局 5 名）

森林を活用した教育・レクの現場を見て、今後の活用を考える

（意見シートより）

＜教育活動、実践の場を見ての感想・意見　「やかましの森」＞
・楽しくてよいと思う。うちの子も自由保育ではあったが、自然の量の桁が違う。最近メディアで似たような幼稚園を見たので、映像で残して活用する（難しい？）
・本格的な活動で感動した。
・実際に園児の遊ぶ姿を見て感動した。
・やかましの森で子どもたちが自然の中で元気に学んでいる様子に感動しました。
・幼児のうちから自然の中で学ぶことが素晴らしい。自然の中で育てたいと思う親たちの考え方に共感。幼

児たちがいきいきと生活していた。
・自然に親しむことの大切さを改めて感じました。
・近年教育現場などで聞かれる「生きる力」という言葉が、広島幼稚園森組では、お題目ではない教育目標となり、実践がされていると思いました。
・子ども達がいきいきとしていたことが印象的でした。このクラスを選ぶ親と子がいることに未来を感じると共に、今までの保育活動（教育）を望む親がいることもあるようですが、時々の交流保育があることに安心しました。
・やかましの森は自分が子供のころを超えた自由度がある気がする。自立心がみられること、友達の面倒みたりうまくやり合うことなど感じられた。無意識の中で体験しながら育っていることが伺えた。このような体験を積んだ子はつぶしが利く大人になる気がする。

＜教育活動、実践の場を見ての感想・意見　「レクの森」＞
・レクの森では、市民がもう少し自然を知ることができるような案内板等の設置があればと思います。
・開発のすぐ隣に自然の豊かさが残っていることに驚いた。

＜教育活動を進めていく上での課題、懸念事項について＞
・地元の小学校など、自然教育を知り、体験地域に行く。他の地域の子どもたちを呼ぶ。しかし、人員、金が必要となる（例えば球場、クボタとセットで呼ぶ）。レク森を森の学校にする。
・安全（食品衛生、スズメバチ、ヘビ、転んでケガ）への配慮
・自然の中で 2 年間過ごした子供たちのその後の姿（自然に向かう姿勢）の変化、他の子どもとの違いなどを知りたいと思いました。
・小学校に上がると、やかましの森で培われたものが途切れてしまう。野幌原始林のまわりで小中学校、大人用の森の学校を開催する（レクの森でも）。メイプルの方に先生を務めていただく。
・小・中・高校生の受け入れはメイプルなど市民ボランティアで経験があります。
・目先の"もうけ”に関わらずに、20 年 30 年先を見ること。
・自然を大切にすること。興味を持ち、親しむことが少なくなりすぎている。大切なものを残してほしい･･･という思いがなかなか伝わらない。
・自然環境は豊かなほど複雑で危険もともなうので、リスクの軽減策が課題。何か事故があった場合、活動が大幅に制限されることが懸念事項です。
・だれでもが経験し、何が大切かを後々に継いでいけるか。
・自然教育ととらえれば、自然をトータルに体験し学べる環境。レクの森だと体験できるが特天エリアだと入れないのでそもそも体験できない。自然を多面的に捉え指導できる指導者の存在。

＜今後期待できる活用の取り組み、そのために必要なこと＞
・レクの森に原始林エリアをつくり、原始林体験できるようにする（原始林の良さを知る）。
・見学会で市民が原始林を見学できるようにする。
・特天エリアの巨大木を観察できる仕組みを考えていただきたい。
・観光資源としてレクの森の活用。エスコンの目の前なのに。レクの森の整備、入場料、入場人数の制限
森の回復に市民がかかわる。
・遊歩道を作る。
・やかましの森の一般向け観察開放を条件付きでよいので利用させていただきたい。
・森林再生。
・池の保全（泥の排出）
・将来、学んだ幼児たちが、自然の大切さを生かしてほしい。
・原始林、レクの森の自然の貴重なことを市民に知って頂くための取り組み。

・事あるごとに、色々な形で知らせる工夫が大切だと思います。
・何事も予算が必要と思いますが、予算の確保のためにも市民の理解が必要と思います。
・あくまで森林の保全を第一に考えることが必要だと思います。啓蒙活動を工夫して行うことを中心にした方が良いと思います。
・整備を市民が担う部分があっても良いのでは。一般市民に呼びかけ、外来植物の除去などでレク森に来てもらい、現状と保存を検討、親子参加あり。
＜今後の活用の取り組みの中で、あなたや市民グループが参加・協力できそうなこと＞
・ボランティア、モニター
・モニタリング調査の協力
・草刈り（レク森中央広場）市民参加。富ケ丘遊歩道の草刈り等の保全を、メイプルのボランティアがやっているように。
・緊急事態である場合の、ササの除去作業、エコミュガイド活動
・自然観察会、環境調査補助参加、里地調査データ提供。
・観察会などを通じて、大切なことを伝えていく。
・広報活動などで、データやアイデアの提供
・若い世代の人たちとも関われないか。教育とも。
・自然の植物や鳥たちの生きていける場を奪わないでいきたい。

＜保存活用計画案の内容で確認したいことなど＞
・やかましの森は私有地であり一般の利用は制限されている中で活用計画とどう絡めるのか迷う。同様に入林規制のある特天は保存メインで活用はかなり限定的だと思う。保存はモニタリングで森林再生の変遷をひたすら記録し続ける。活用は再生林内にフットパスを設け森林再生の現場を体験してもらうことなどか？ただしインパクトのある目玉がないと続かない。
・意見交換のときに指摘があったが、遊歩道などの草刈りで貴重な植物も全て刈られるため、愕然とすることが多いとのこと。

（当日の質疑、討議より）　※二つのグループに分かれて、参加者が意見を出した。
＜教育活動、実践の場を見ての感想・意見＞
・子ども達がいきいきと活動していた。子ども達は森の楽しさをしっている。
・早期からの森林教育の重要性。市の教育にも活かしていければ。
・小さい頃から自然に触れる場としてよい。
・レクの森は、原始林を彷彿とさせるものがあるのに、自由に立ち入ることができる。大事にしていきたい。
・レクの森の池は 30 年前はきれいだった。補修すべきである。
・レクの森が活用されていない。

＜教育活動を進めていく上での課題、懸念事項について＞
・各団体の横のつながりの促進ができるとよい。年 1 回でもハブになるものがあれば。エコミュージアムの役割が重要である。
・卒園後の小学生向けにも何か場が欲しい。中学については受け入れ実績がある。
・活用時の森への影響は心配である。モニタリング時に専門家に同行するなどする。
・上物だけでは活用できない。何をするのか考える。
・市役所の相談窓口が分かりにくい。

＜今後期待できる活用の取り組み、そのために必要なこと＞
・自転車の駅には駐車場があり利用しやすい。利用の拠点に使える。

・散策路沿いなどで経緯など知られる場があれば。
・１年に１回くらい市民が原始林を見れる機会があるといい。
・子ども達が森の変化を見られるように、遊歩道付けられるとよい。

＜その他＞
・池の近くにクリンソウが生えていたが、草刈りされてしまっていてショックである。中央広場でもツルリンドウが草刈りされており、ピンクのテープをつけて注意してもらっている。他の公園でも同様で、市に伝えたら対応してくれたが、作業員まで伝わりにくい。ちゃんと伝える体制が必要。
・水辺の広場には非常に良い自然が一部残っているので、原始林とともに考えたい。保存は周辺一帯を一体化していくことが重要。
・この地域の里山を残したのは市民参加で残したようなものであり、歴史的経緯を大事にしたい。
・今の時代の保全は、全体的な必要性などの考え方からきている。保護区に関する 30by30 の目標なども含めて考えないと今はいけない。これからの保全なので、気候変動など長いスパンで考えるべき。
・市の担当者のみならず、連携体制をしっかり確立して森林を守る必要がある。

第 3 回：6 月 30 日（日）実施　参加者 23 名（内委員 2 名、事務局 5 名）

森林再生途上の場所を見学し、今後の森林再生について考える

（意見シートより）

＜追加指定地の非自然林を今後どう取り扱っていくべきか＞
・国内外来種のカラマツの扱い、伐採するか？カバーツリーとしてある程度残すか？
・植栽を自生種というだけではなく、そこの自生するものにしては？（遺伝子汚染）
・周辺の母樹からの自然侵入による樹木の育成。樹木が生育する手助けを人がするしくみをつくる。
・森にするための課題が多すぎる。シカの食害、土の質の悪さ、水不足（畑だったところ）。シカよけの柵などはどこがお金を出すのか。

・母樹林を広げていくのを助ける。"
・土地の一部を実験してみる。シカに対しての対応
・今日見学させていただいて説明を受けた状況では、農耕跡地がこのままの状態で自然林に戻るのは難しいと思いました。手を加えず、様子で見守るしかないのではと思います。
・この状態のまま森林再生への変遷を見守る。
・当面観察し、変化を見極める（推移、植生）見守る。
・表面表土が多少掘削されている様な状態のため、森にもどすのには時間がかかることが予想される。発達の可能性があるエリアは「自然の力を使い、人力で森づくりが可能性のある地をゾーニングする。その上で市民に預けてほしい。

＜追加指定地を活かした活用としてどんなことをしたらよいか＞
・野幌原始林を象徴するトドマツを野幌固有のものとして保存。
・非自然林を活かして見本林（遷移の）としては？
・市民に森が再生していく様を見守ってもらう。感じてもらう場所として活用する。
・ゾーニングして見ていく。小学生がかかわるゾーンも作る。
・周りの整備を市が行う。
・風倒地の樹を耕作放棄地に移す。
・耕作放棄地の増加は大きな問題になっていると思います。特別天然記念物に指定されたことをよい機会として、人でをあまり加えない条件で、どのように自然に戻っていくのか、調査して頂ければと思います。
・自然再生の変遷をツアーなどで市民に知ってもらう。
・表土の回復に合わせて、植生の変化を観察記録する。周辺の樹種の比率にあわせて種子を播種することも。
・ミニ森づくり！それを大きく育てる。

＜これまでのワークショップを踏まえて、計画にどんなことを盛り込むべきか＞
・見本林的に市民、観光客が歩けるところにしてほしい。
・何もせず見守るだけではなく、お金をかけずにできる森林再生の方法や仕組みを考えて実行する体制づくりを盛り込むとよいと思う。
・名前をつける。地域を区切って（小面積で観察していく）整備、順番をつける。結果を見るメンバーを集める。緑にしたい⇒園芸林にしないように
・身近に豊かな森林があるメリットとして、CO2 吸収効果などでもアピールできないでしょうか。
・特別天然記念物の価値を市民に知ってもらえる仕組みを考えて頂きたい。
・自然と人間の歴史（開拓）もからめ、どのように自然が復元再生するか見守る（実験的試みとして、極力人の手を入れない）講義で植林による森林再生事例を聞かせて頂いたが、北広島では人の手を全くかけないとどのような森林再生になるか変遷を見守り続けてほしい。

・61 林班、61 と～61 ハへかけてカラマツ稚樹のある場所を整える（美しい森、自然の森へ）。
・現代社会の多くの人が共感できるような自然保護を核にしたエコミュージアム的な理念をかかげ、その理念に沿って統一感あるハード、ソフトの保全活用の計画を立てて欲しい。その理念を、国、管理者、専門家、協力者、そして一般市民が共有できるように働きかけて欲しい。
・エスコンのような、自然に対して利害が対立しやすい立場とも理念を共有することで、協力体制をつくって欲しい。
・特別天然記念物としての文化的価値が保全されている状態の具体的な森林構成や生態系のあり方のイメージを示して欲しい。
・今回の自然物の保全活用計画は先駆的なものということなので、大きなプロジェクトにして国内外から視察に来るような取り組みができれば、予算もつきやすく良いと思う。
・森林保全地、教育利用地、森林再生地の 3 つがそろっていることを利用し、お互いが有機的なつながりを持つよう保全・利用する。例えば、耕作跡地はあえてその森林再生を前提としないことで自由な実験の場と

して使い、森林再生やシカ対策などについて得られた知見を保全地に生かしたり、情報を提供したりする。風倒木地は、稚樹の苗木利用などに。
・広島幼稚園との情報交換や協力体制により、他の教育機関や市民を巻き込んで自然の教育効果を共感しあい、自然保護活動の推進力とする、など。
《「野幌原始林」の周知について》
・原始林（特天）に生息するクマゲラ（特天）などをモチーフに、イメージキャラクターを募集し、今後のキャンペーンなどに利用する。
・「原始林動植物検定」を実施し、学びを応援する。
・原始林の魅力を伝える新聞（4コママンガ付き）を季刊くらいで発行して、学校に配布
・原始林の一般立ち入りは禁止を貫くかわりに、ヴァーチャルリアリティで特別の装置を使って、原始林探検が体験できるコーナーを市役所等につくる
・小学生向け、原始林すごろく（クマに会ってスタートに戻るや、タイムワープして郁二郎の時代に行くコースなど）をつくる
・小・中学生、学校等、苗木育成、植樹など

（当日の質疑、討議より）　●は参加者から出された質問や意見

＜非自然林の再生・活用について＞
●今回の場所は優先順位が低い。市民の力が貴重なので、魅力的なところにつかうべき。
●活用するにはトイレなどが必要である。アプローチも悪く、レク森の周りの方がアプローチしやすい。
●特別天然記念物でもあるので、簡単に入れない方がよい。限られた作業の時のみ入る形がよい。

●ゾーニングして進めていくのがよいのでは。全部が難しくても現実的に進められれば。小学生が使うゾーンもあったらよい。
●広い土地を一括するのは無理。少しずつ実験するのがよいかもしれない。何に使うのか目的を定めて。
●小面積でパターン分けして試して、方向性を見出せればよいのでは。5m四方くらいで実験をして5年後に考えるような。
●ゾーンごとの管理方針を決めるのが先。それによって計画が決まる。
●何かやるのにやりやすい形は考えてもよい。
●人間が環境を変えて、シカが増えてしまった。そうなると管理しなければ、森林の再生は難しいだろう。
●エゾシカの問題など場所ごとに対応してはどうか。
●シカ柵を作るなどして追跡して、変化を試験的に調べていく。

＜耕作跡地について＞
●なんで追加されたのか不思議ではある。人手をかけるのは天然記念物の理念と乖離しないのか。
●畑は課題が多すぎる。土を入れ直す、シカ対策など、大変なのは理解できた。自然の力に任すべき。
●森に戻るには時間がかかる。
●畑を活用するなら原始林を戻すための場にあるのが活かし方とは思う。
●植林が一般的だが今後手を加えずに見守ってはどうか。
●畑になる前の植生はどうだったか。畑になったことで何か再生を妨げることはないのか。
●元の土地所有者に畑になる前の状況を聞き取りしてはどうか。
●入植以降の歴史を詳しく把握するとよい（追加指定地）
●土地改良は一遍にやってしまうのがよいのでは。
●周囲にある母樹林を活かして苗畑をつくるなどを検討してはどうか。
●追加指定地の土壌調査が必要では。
●奥の森側はまだ可能性があるのでは？

●森との境目を優先させて、草刈り、シカ柵をやるのがいいのではないか。
●アワダチソウがひどいのは確か。大きくなっていく種子を助けるやり方があっているのでは。次世代に残るという目標ができるとよい。

＜その他再生方法について＞
●西の里の更地では、まずシラカバが生えてきて、その後、マツが侵入できた。そういう例は参考になる。
●市内でヤマナラシを使って森林を再生する取り組みが行われたことがある。
●野幌原始林の特徴はトドマツであると考える。現地に由来するトドマツで再生させたい。
●桜を植えるところが増えている。そういう方向性は見誤らないようにしたい。
●レク森は台風後はそのままだったが、同じような形で植えているのが気になる。

＜その他周知について＞
●特別天然記念物の価値を市民に理解してもらう取り組みが必要
●指定の経緯に、地元住民の直訴したことが影響したことを記述した方がよい。今後、市民が関わる意欲にも関わるだろう。
●自然再生の変遷をツアーなどで市民に知ってもらう。